



新板  
子  
春

上

母  
三升作

2378  
356



市川三升作  
北尾重政画

全部六册合卷

梅花開  
銀世界雲之振袖

一萬株

前篇

2378  
356

文政十一年 江戸馬喰町三丁目  
子春開市 森林屋治兵衛壽櫻

風小唄 呼ば其姿高くそぞろく 聞者多く丘小登り

の筆意普く評判千里はまきや四方は女童子の目と慰る事  
戯述の雫紙はまきやとせん然るに年々著述の新説ある事  
あも自著の如きの雁作を今茲も亦くおもむく絃外を三升の代  
編の元々り宵中不女より巧んとる念をあらねど抵言下  
の横敷弄りて焼車や古内もあそび野邊のはらりたる  
華より物書直似をまき墨の梅の赤本本毎の花雲の  
ゆき袖はまき業仕をまきやあけく六冊續又改の増す女宗  
玄作の安賣徳用向御後の上まき庄河別備願義るといふ

文政十一年戊子新彫

木場のめいらく

五柳亭徳升識

長世長

長



大友家の  
奥女中琴浦  
宗玄尼



花のみや  
兼春  
菊地  
大友家の  
中間  
助  
日傘  
ひと目  
かみ

水の面

さつげんがら月の

大友家の息女

折琴姫

銀屏風

芦間のハレ

ひときびの



照る月の

さつげんがら月の

村雲の

杖よめ

丁の玉

実の菊地家の  
一子菊丸

小性立浪

主税



北岩倉の  
宗玄尼

あみく  
何をさる虫と  
しよと成

逢時

あまをさる  
ひのり  
ふたつ

暑夜



おけり  
お重と  
あれと  
恋る  
病

獵師  
幸作





東寺の場

とり大友の世つたて  
るまねらののち  
そいをおか  
るて一おのま  
つをせとこの  
武せうのたごん  
めのとひまらう  
ぐのあまうら  
くよあてのま  
友あをたえん  
るまねらののち  
なんとせり

あまのむす  
さるコリヤ  
わたりま  
このま  
そりま  
ひまら  
せられ  
女を  
とり大友の世つたて  
るまねらののち  
そいをおか  
るて一おのま  
つをせとこの  
武せうのたごん  
めのとひまらう  
ぐのあまうら  
くよあてのま  
友あをたえん  
るまねらののち  
なんとせり

このひまらう  
あまのむす  
さるコリヤ  
わたりま  
このま  
そりま  
ひまら  
せられ  
女を  
とり大友の世つたて  
るまねらののち  
そいをおか  
るて一おのま  
つをせとこの  
武せうのたごん  
めのとひまらう  
ぐのあまうら  
くよあてのま  
友あをたえん  
るまねらののち  
なんとせり



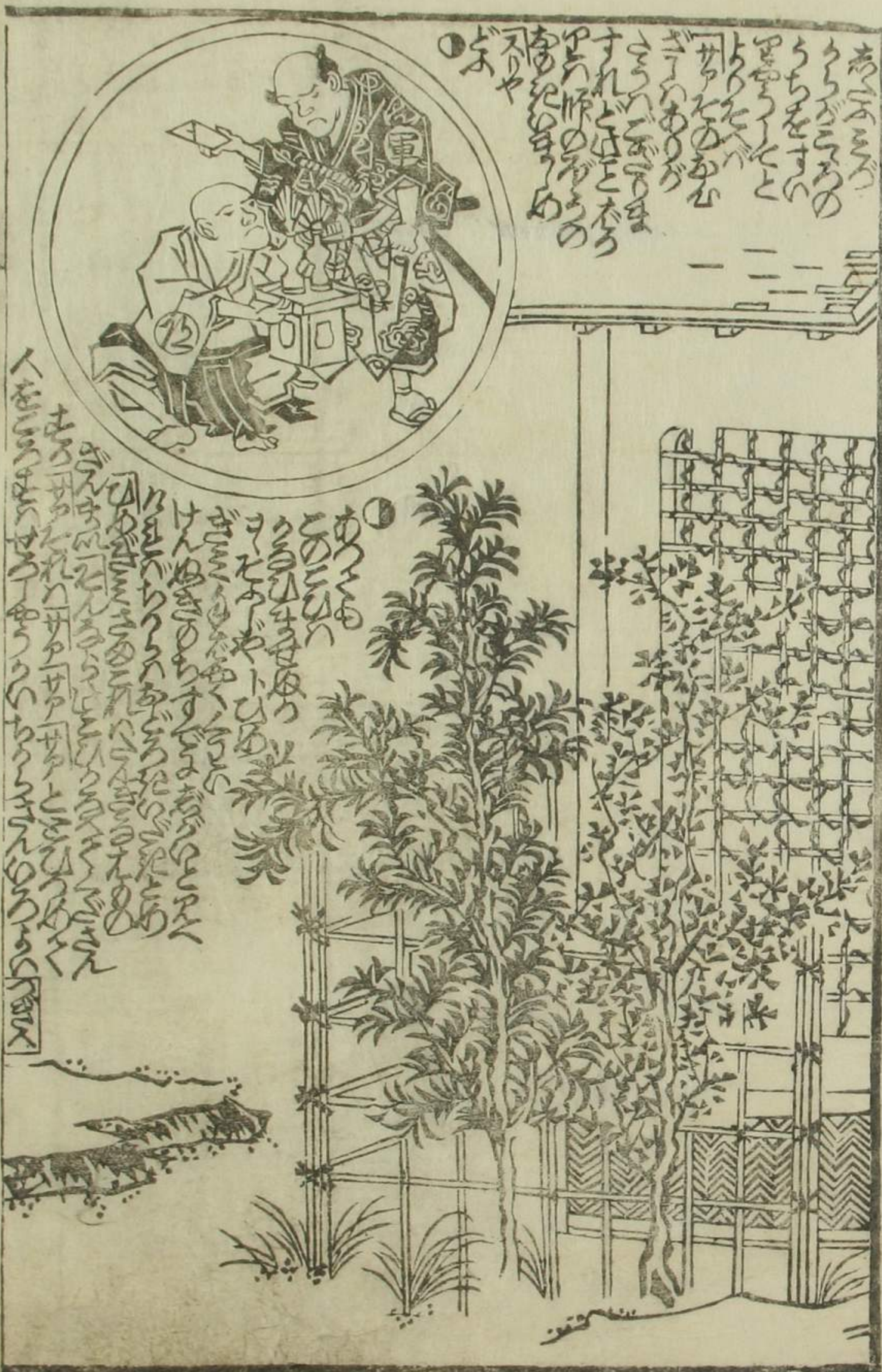
東寺の場

とり大友の世つたて  
るまねらののち  
そいをおか  
るて一おのま  
つをせとこの  
武せうのたごん  
めのとひまらう  
ぐのあまうら  
くよあてのま  
友あをたえん  
るまねらののち  
なんとせり

あまのむす  
さるコリヤ  
わたりま  
このま  
そりま  
ひまら  
せられ  
女を  
とり大友の世つたて  
るまねらののち  
そいをおか  
るて一おのま  
つをせとこの  
武せうのたごん  
めのとひまらう  
ぐのあまうら  
くよあてのま  
友あをたえん  
るまねらののち  
なんとせり

このひまらう  
あまのむす  
さるコリヤ  
わたりま  
このま  
そりま  
ひまら  
せられ  
女を  
とり大友の世つたて  
るまねらののち  
そいをおか  
るて一おのま  
つをせとこの  
武せうのたごん  
めのとひまらう  
ぐのあまうら  
くよあてのま  
友あをたえん  
るまねらののち  
なんとせり















此の役のせん  
 多のけんの祿  
 のりゆきとて  
 せぬ大やまを  
 さして入りける  
 こゝろのまの  
 小うげのあは  
 つまのひびきの  
 らせのあひび  
 七れと又ひと  
 どののあひび  
 くらひてこゝろ  
 とまひよふ

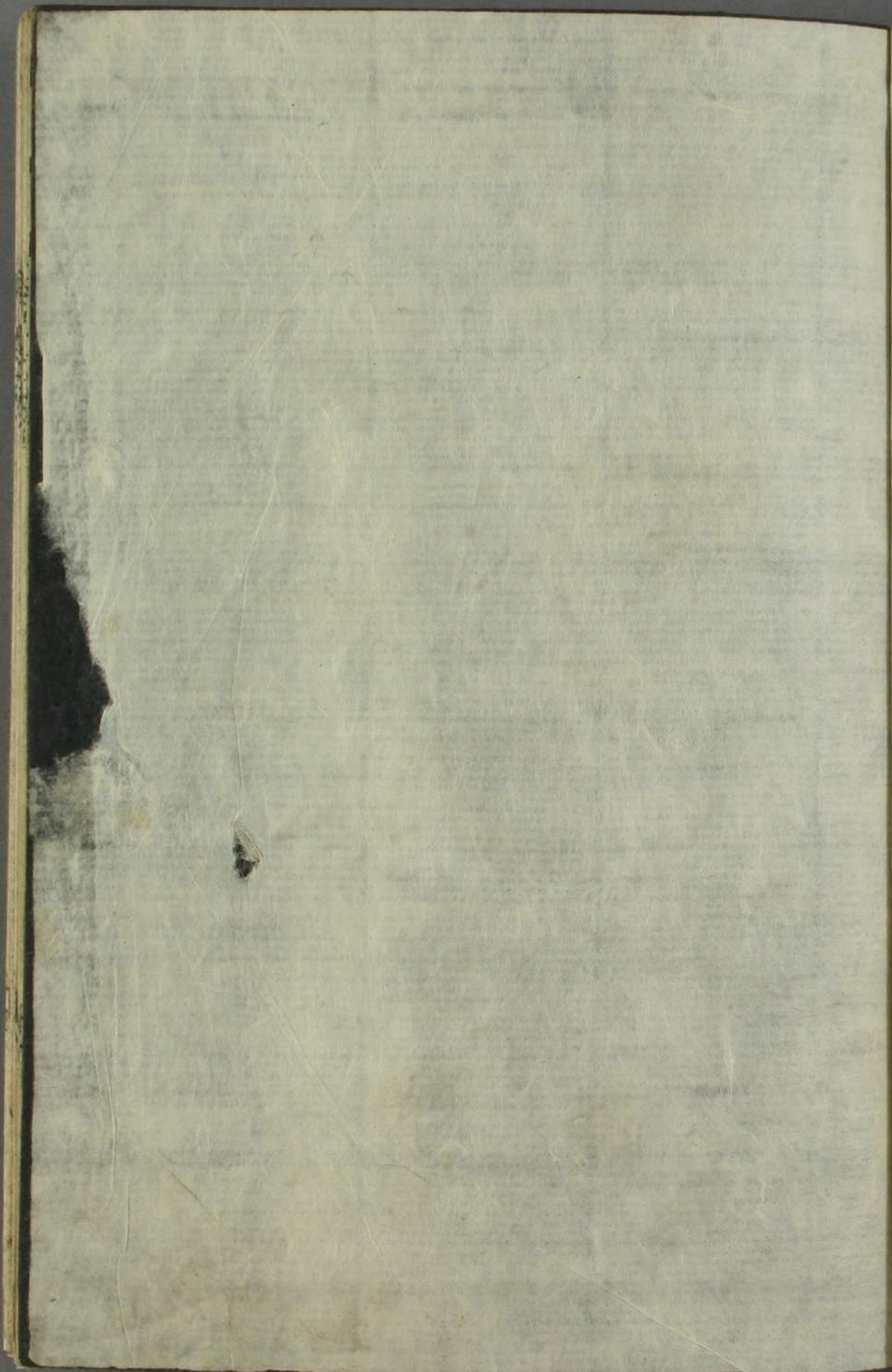
市川三升作

此の役のせん  
 多のけんの祿  
 のりゆきとて  
 せぬ大やまを  
 さして入りける  
 こゝろのまの  
 小うげのあは  
 つまのひびきの  
 らせのあひび  
 七れと又ひと  
 どののあひび  
 くらひてこゝろ  
 とまひよふ

鏡の場

二条の大路大どやを  
 上りきりて  
 二条の大路大どやを  
 上りきりて

北尾重政画





雪子

雪の心持 申海人

子結其形板

三升作 多雪町二丁目

雪の心持 申海人



三の巻の初め... 雪の心持... 申海人... 子結其形板... 雪の心持... 申海人... 子結其形板...

眼世眼



雪の心持... 申海人... 子結其形板... 雪の心持... 申海人... 子結其形板...

雪の心持... 申海人... 子結其形板... 雪の心持... 申海人... 子結其形板...

















くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら



おろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら

くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら



おろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら  
 くらりくらり  
 そろくむらむら  
 ああそろくむらむら  
 おおそろくむらむら









銀世界雲之振袖  
 後海人  
 子結其彩板

三升作  
 重政画  
 糸慶堂梓

四の米...

あつち...

...







昔の  
之の  
古  
之



茶番  
狂言

金七郎

九



一丁あて  
 二丁あて  
 三丁あて  
 四丁あて  
 五丁あて  
 六丁あて  
 七丁あて  
 八丁あて  
 九丁あて  
 十丁あて  
 十一丁あて  
 十二丁あて  
 十三丁あて  
 十四丁あて  
 十五丁あて  
 十六丁あて  
 十七丁あて  
 十八丁あて  
 十九丁あて  
 二十丁あて  
 二十一丁あて  
 二十二丁あて  
 二十三丁あて  
 二十四丁あて  
 二十五丁あて  
 二十六丁あて  
 二十七丁あて  
 二十八丁あて  
 二十九丁あて  
 三十丁あて  
 三十一丁あて  
 三十二丁あて  
 三十三丁あて  
 三十四丁あて  
 三十五丁あて  
 三十六丁あて  
 三十七丁あて  
 三十八丁あて  
 三十九丁あて  
 四十丁あて  
 四十一丁あて  
 四十二丁あて  
 四十三丁あて  
 四十四丁あて  
 四十五丁あて  
 四十六丁あて  
 四十七丁あて  
 四十八丁あて  
 四十九丁あて  
 五十丁あて

七五  
 七六

七五  
 七六  
 七七  
 七八  
 七九  
 八〇  
 八一  
 八二  
 八三  
 八四  
 八五  
 八六  
 八七  
 八八  
 八九  
 九〇  
 九一  
 九二  
 九三  
 九四  
 九五  
 九六  
 九七  
 九八  
 九九  
 一〇〇



一丁あて  
 二丁あて  
 三丁あて  
 四丁あて  
 五丁あて  
 六丁あて  
 七丁あて  
 八丁あて  
 九丁あて  
 十丁あて  
 十一丁あて  
 十二丁あて  
 十三丁あて  
 十四丁あて  
 十五丁あて  
 十六丁あて  
 十七丁あて  
 十八丁あて  
 十九丁あて  
 二十丁あて  
 二十一丁あて  
 二十二丁あて  
 二十三丁あて  
 二十四丁あて  
 二十五丁あて  
 二十六丁あて  
 二十七丁あて  
 二十八丁あて  
 二十九丁あて  
 三十丁あて  
 三十一丁あて  
 三十二丁あて  
 三十三丁あて  
 三十四丁あて  
 三十五丁あて  
 三十六丁あて  
 三十七丁あて  
 三十八丁あて  
 三十九丁あて  
 四十丁あて  
 四十一丁あて  
 四十二丁あて  
 四十三丁あて  
 四十四丁あて  
 四十五丁あて  
 四十六丁あて  
 四十七丁あて  
 四十八丁あて  
 四十九丁あて  
 五十丁あて

七五  
 七六

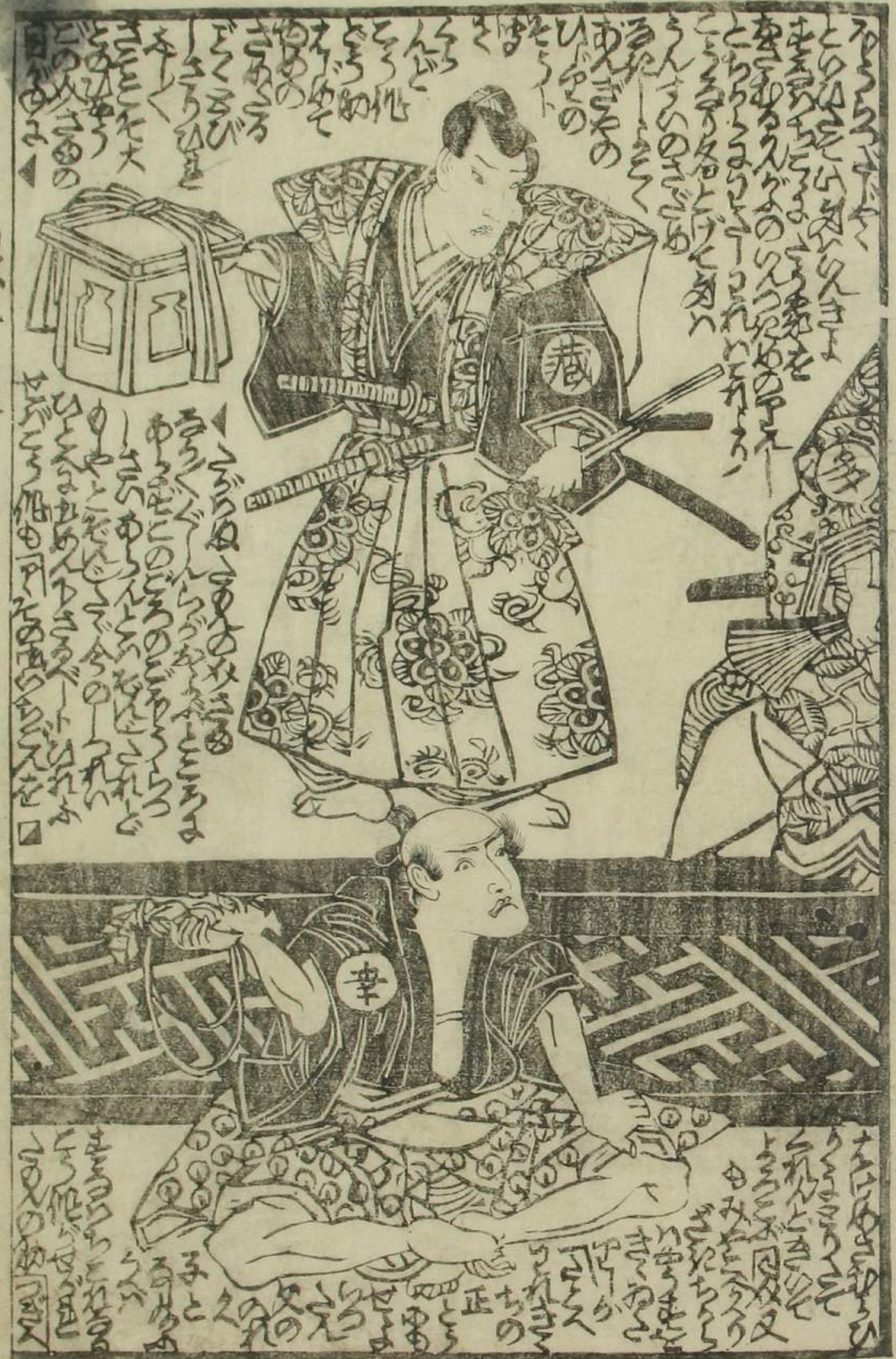












天竺山

天竺山



天竺山

天竺山



日本一...

北尾重政書

市川團十郎作

ついでに... 市川團十郎... 北尾重政... 仙... 香... 包... 八... 人...

船

